

東京都の地域医療構想を考えるニュース

第1号 2016年5月9日

私たちが求める医療・介護を実現する会（仮称）

事務局・東京自治労連 電話03-5940-7951

2014年6月18日に国会で成立した「医療介護総合確保推進法」を受けて、「医療法」が改正され、2015年4月以降、都道府県は地域医療構想を策定することが義務付けられました。国の医療需用推計の結果、2025年に65歳以上人口がピークを向かえ、東京都では病床が7,000～8,000床不足すると言われています。

「医療介護総合確保推進法」が成立した背景には、医療と介護を一体的に議論し、超高齢化社会に対応する事が目的で、そのための方策として、介護分野の「地域包括ケアシステム」と医療分野の「地域医療構想」を策定するよう都道府県や各自治体に義務付けられました。この2つの仕組みは、車の両輪であり相互に連携すべき施策ですが、東京都では別々の所管部署で策定作業が進められているため、必要な議論が抜け落ちていきます。こうした下、4.23シンポを開催しました。

予想を上回る参加者に熱気溢れる会場！関心の深さ浮き彫りに

4月23日(土)、「私たちが求める医療・介護を実現する会（仮称）」（以下、「実現する会（仮称）」）は、シンポジウム「私たちが求める医療・介護」をラパスホールで開催しました。当日の参加は予想を大幅に上回る137人の参加で、会場は溢れんばかりの人で埋め尽くされ、地域医療構想への関心の深さが浮き彫りとなりました。



地域医療構想今後の運動につながる問題提起で一致点を見出す！



はじめに行われた記念講演では、「医療・介護（社会保障）改革への基本的な視点」と題して、芝田英昭立教大学教授にお話いただきました。

続いて行われたシンポジウムは安達智則（東京自治問題研究所・主任研究員）さんをコーディネーターに、3人の方から報告を受けました。

都庁職病院支部の大井英昭書記長からは「東京都地域医療構想策定部会の経過と課題」について、東京保険医協会理事の細田悟医師から「都民と保険医を取り巻く社会保障制度の実態」について、ケアサポートセンター千住の石田美恵所長からは「私たちが求める医療・介護～ケアマネージャーの現場から」について、それぞれの立場から現状に基づいた具体的な報告がされました。

東京で、住み続けたい。わたしたちの生活といのちをまもるため、会議にご参加を！

参加者から寄せられたアンケートの中では、「医療、福祉、介護のネットワークが基本、もっと住民の声を行政側にいわないといけない」「医療、介護が分断されている。利潤追求の医療、福祉が当たり前になっていることがおかしい」「各地域での運動を交流する場が欲しい。横の運動を広げ、つなげるにはどうすれば良いのか論議する場が欲しい」などが寄せられました。

私たちが求める医療・介護の実現（仮称）結成に向け **5月25日（水）18:30～東京自治労連**で会議を行います。個人・団体は問いませんので、是非、ご参加下さい。

わたしたちの生活といのちをまもりましょう。

